



南極の氷にふれ、歓声をあげる児童

極寒の地に思いをはせる

南極の水贈呈

砕氷艦「しらせ」が南極から持ち帰った氷が6月1日、阿曾小学校に寄贈されました。

しらせで物資の輸送や観測支援を担当した海上自衛隊員が5、6年生47人に、「南極の氷は、雪が固まったもので、氷の中には数万年前の空気が入っている」と説明。興味深げに聞き入っていました。

氷は今年1月に採取したもので、子どもたちは、氷に触れて感触を楽しんだり、氷が水のなかで溶けるときに出る音を聞いたりし、極寒の地に思いをはせていました。

ミニフォト

田んぼの学校で田植えを体験



田植え綱に沿って手植え

田んぼの学校の田植えが6月4日、福井地内の田で開かれました。総社北分館管内の子どもら約140人が参加。子どもたちは約6㍓の田に入り、苗の持ち方や植える深さなどの指導を受けながら、田植え綱に沿って植えていました。

ファミサポ10周年を祝う



子どもたちもステージで歌う

市ファミリーサポートセンターは設立10周年を記念し6月4日、市民会館でファミリーコンサートを開催。親子連れら約500人が来場。アニメソングや童謡など子どもたちの大好きな音楽と、かわいい歓声に会場は包まれていました。

楽しく体を動かす



どっだ、入るかな

総社市長杯グラウンド・ゴルフ大会が5月27日、市スポーツセンターで開かれました。市内の60歳以上の男女約300人が参加。参加者は和気あいあいとした雰囲気の中でおしゃべりを楽しみながらプレイしていました。

100歳 おめでとうございます



祝福される矢野さん

5月22日に100歳の誕生日を迎えられた矢野寿代さん(溝口)に5月24日、県と市から記念品が贈られました。お祝いに来た人に「ありがとう」と感謝した矢野さん。長寿の秘訣は、昔からよく体を動かしてきたことだそうです。

地域の石仏・石造物を調べる



調査方法などを学ぶ受講生

石仏・石造物の調査が服部・阿曾地区でも始まりました。調査は東公民館の講座として実施。講座生18人は5月25日、講師の岡山民俗学会名誉理事長の立石憲利さんから、石造物や石仏の種類や調査のポイントなどを学びました。

総社南高ダンス部4部門で全国へ



総社南高のジャズ部門の演技

全国高等学校ダンスドリル選手権大会の中国・四国大会が6月5日、総社南高校で開かれました。7校が参加。総社南高校は、ヒップホップ(スモール)とジャズ、ソングリーダー、プロップの4部門で全国大会の切符を手に入れました。

研究開発施設を誘致

指月電機製作所のR&Dセンター

大規模工場等立地促進補助金を交付することで、市が立地を支援した指月電機製作所(本社:兵庫県西宮市)のR&Dセンター(研究開発施設)が見延地内に完成。しゅん工式が6月9日、同所で行われ、関係者ら約50人が完成を祝いました。

太陽光発電、電気自動車やハイブリッド自動車の性能アップと普及のため、コンデンサーの蓄電量の大容量化や軽量化、耐熱性の向上などの研究開発を主に行う計画です。

大型の研究開発施設の立地は市内初で、今年5月に操業を開始しています。



完成した指月電機製作所のR&Dセンター



ヒゴ池湿地を舞うハッチョウトンボのオス。体長は約2cm。8月中旬まで可憐な姿をみることができる



夏の交流のお土産にと土鈴づくり

十日町市中条小学校との交流事業

新潟県十日町市の中条小学校の子どもたち35人が7月23日から25日までの3日間、山手小学校の児童との交流で来総。そのときのお土産にと、山手小学校の4年61人が6月10日、土鈴を61個を作りました。

子どもたちは、型に粘土を押し付けて、釣り鐘型に成型。表面には、「ようこそ山手へ」の文字を刻んでいました。乾かした後、窯で焼き上げて完成させます。

この交流は今年で15回目。



山手の陶芸クラブの会員の指導を受けながら、型を使って土鈴を作る子どもたち

菊づくりの底辺を広げたい



講師の説明を聞く受講生

市花の会では「菊づくりの底辺を広げたい」と、盆栽菊づくり講習会を5月21日、中央公民館で開きました。14人が受講。秋の菊花展への出品を目指し、形の整え方や茎のせん定などのコツを講師から熱心に学んでいました。

クリーン作戦



宝福寺で掃除をする皆さん

クリーン作戦が6月5日、市内一円で実施されました。備中国分寺や宝福寺、豪溪などでは、ごみ袋を片手に、多くの人がごみを拾って歩きました。この日集まったごみは約6.2トン。皆さん、ご協力ありがとうございました。

復興支援チャリティーコンサート



復興を応援する思いを歌声に

東日本大震災の復興支援にと、市内を中心に音楽活動をしているバンドなどが5月15日、チャリティーコンサートを市民会館で開催。出演した5組の熱い歌声は、「東北がんばれ」とする約500人の観衆の思いを一つにしていました。